

R6年度 教師と児童が共に学び、学び合いを通じた学び方の習得  
～指導の個別化・学習の個性化を図る効果的な ICT の活用を通して～



## 校内研修通信⑥

### 研究授業ありがとうございました。



先生の授業、そして先生方の参観ありがとうございました。今回はなかなか見られない体育の授業で、個別最適な学びや ICT の活用をどのように行うのか学ばせていただきました。授業研究会での先生方の気づき、または自分が感じたことをもとにここに書かせていただきます。

今回の授業で感じたことは以下の3点です。

- ①児童の学びの場の確保
- ②ICT 活用と運動のバランス
- ③教師の“みとり”について

〈① に関して〉

今回の先生の授業では、導入場面の後にパワーアップタイムとして児童自らが学習の場を選択して、活動する場面がありました。場がないと、児童は選択できずにただ指示に従って同じ練習をくりかえすのみになります。しかし、場があることで自分の能力を見つめ直し、自分にあった場所で練習する、そのような学習の経験はどの強化にも通じる重要なことなので、体育においても場作りで児童が選択する場面をつくるという重要性を改めて感じました。

〈②に関して〉

ICT 活用面においては、先生が動画を撮影して児童にすぐみることができるよう準備されていました。低学年の児童において、パッと見て分かるということは需要です。その点では、ICT は非常に有効でした。また、タブレットを使って話し合いを行われていましたが、その分運動量はおのずと少なくなってしまいます。しかし、単元レベルで今日の授業をみたときに教師が「この 1 時間は作戦を考えることを重視した時間にしよう」とすれば、今回の先生の授業は十分児童が話し合うことができていたと思います。ICT の活用は運動量を確保しなければならない体育にとっては、活用できないのではなく単元でみた時間で考えればよいと感じ、積極的に活用していこうと思いました。

〈③に関して〉

今回の授業は作戦を考えて、ゲームで実行、そして再び作戦を考えるという展開でした。個人で作戦を考えることができていても、実際に試合になると夢中になって実践にはつながっていなかったように感じました。私も授業をして感じているのが、考えたことを活用できるかです。例えば算数では、課題に対して自分たちで予想をたて、どのように学ぶか選択し、学ぶという児童主体の学びを行っています。その中で児童は一生懸命自分なりに考えているなかで、学び取っていくのですが、自分の力で問題を解くとなったときに、できないと言う場面が多々あります。分かったつもりになっては行けないと感じ、そこで教師が児童の学びをみとり、コーディネートする必要があると感じました。